第13回全国銀行大会における総裁講演要旨

本日ここに第13回全国銀行大会の開催せらるるに当り、いささか所見を申し述べる機会を得ましたことは、私の最も喜びとするところであります。この機会に私はまず、一昨年春の金融引締め以来、長きにわたる試練に耐えてこられた経済各界のご努力に対し、深く敬意を表したいのであります。

〔内外経済の動向と問題点〕

幸いわが国経済は、昨年秋ごろを境といたしまして漸次好転をみせており、いまや再び新たなる発展を望みうる状況となつたのであります。このところ総じて物価の安定を伴いつつ経済は順調な進展をつづけており、また資金需給の実情もひところに比べかなりの改善を示しております。しかもこの間、国際収支は引続き黒字基調を維持し、外貨保有高もようやく10億ドルをこゆるに至つたのであります。このように顕著な経済の立ち直りは、何よりもまず経済各界のたゆまぬ努力の成果と存ずるのでありまして、私は今日の回復がいわゆる景気振興策にまつことなく、主として自力によつてもたらされましたことを高く評価するものであります。しかもこのことは同時に、わが国の経済力がようやく強固なものとなつて参つたことを示すものでありまして、まことにご同慶の至りであります。

しかしながら、わが国経済が今後さらに順調かつ持続的な発展を遂げて参りますためには、なお内外に少なからぬ問題の存することを認めなければならないのでありまして、次にこれに関し若干の所見を述べてみたいと存じます。

まず世界経済の動向についてでありますが、米国経済がいち早く立ち直りを示し引続きかなりの上昇を遂げつつあるのを始めとして、世界景気も全般的にようやく明るさを加えているように見受けられます。しかしながら個々にみて参りますと、米国では早くも金融引締め政策に転じ、景気の行過ぎを防止する態勢がとられており、加うるに、これまであまり問題とならなかつた国際収支の不均衡が最近では深い関心を呼んでおるようであります。また西欧諸国におきましては、総じて国際収支は相当の改善をみておりますものの、景気はようやく緩やかな上昇に向かいはじめたばかりであります。さらに後進諸国では、一部国際原料商品の市況回復などにより、これまで困難を極めた外貨事情に若干改善のきざしもうかがわれますが、これら諸国の情況は依然世界経済に困難な問題を投じておるのであります。これらの点からいたしますと、当面世界経済が好転するにしましても、これに多くを期待することはまだ早計であろうと思われるのであります。

しかもこの間におきまして、世界経済の底流にはまことに注目すべき動きを生じているのであります。それは申すまでもなく、昨年末西欧諸国がいつせいに通貨の交換性回復に踏み切り、これを契機として世界経済の自由化が一段と進展をみていることであります。私はこれを、1950年前後において主要諸国にみられたいわゆる「通貨政策の復活」につづく戦後世界経済における画期的な動きと考えるものであります。「通貨政策の復活」は直接統制の撤廃による国内経済の自由化に即応したものでありましたが、今回の交換性回復は対外面における自由化へ向かつての大きな前進であります。これはもとより各国経済力の充実向上を背景といたすものでありますが、同時に国際協力の強化がその支えをなしていることも見落せない

点であろうと考えます。最近国際通貨基金や世界銀行など国際機関の機能を強化する動きが目立つており、また西欧6か国によつて結成された欧州共同市場もまず順調な滑り出しをみせております。このように各国相協力しながら、しかも自由な競争を通じ世界経済の発展を期するという態勢を固めているのでありますが、これに伴いまして、これら諸国がそれぞれ自国経済の運営を一段と堅実化して参るであろうことは想像に難くないのであります。

このような世界経済の基本動向にかんがみまするとき、わが国のみその圏外に立つことは到底許されないのでありまして、私どもはこの際、世界的な自由化の動きに対処して遅れをとらないためにも、また経済の堅実な発展を期して参るためにも、いま一段と努力を傾けるべき時と存ずるのであります。最近経済が比較的落ち着いた拡大を続け、多少ともゆとりを生じておりますことは、この健全化努力のための最良の機会と申すべきでありますが、反面もし目先きの好転に安んじ性急な拡大に走るならば、またしても経済の激動を繰り返すおそれなしとしないのであります。最近企業の設備投資意欲や銀行の貸出態度に一部積極的な動きがうかがわれますことは、国際収支の実質的な黒字がやや減少傾向にあるのと考えあわせ、相当の注意を要するものと存じます。当面かかる傾向の行き過ぎるのを未然に防ぎ、経済の落ち着いた拡大を将来にわたつて持続しうるか否かは、一に金融・経済を通ずる正常化の成否にかかつていると申しても過言ではないと思われるのであります。

〔金融正常化の基本方向〕

以上申し述べましたように、わが国経済の当面する最大の課題は、経済の節度ある発展を期するとともに、世界の大勢に即応して自由化の基礎を固めて参ることに存するのでありまして、これがため何よりもまず金融の正常化を推し進めて参らねばならないのであります。自由経済を建前といたします場合、金融はいわばそのかなめとしての地位にあり、もしこれが十分に調整の機能を果しえないならば、経済の安定的発展は到底望みえないのであります。

わが国におきましては、これまで金融政策は、国際収支の危機など緊急事態に対処する事後的な対策としては確かに大きな効果を収めたと申せましようが、経済拡大の行過ぎを未然に防止する事前的な調整機能はあまり働かず、このため経済の激動を繰り返して参つたことは率直に認めざるをえないのであります。これを根本的に是正いたすことが私どもの念願であり、また金融界の大きな課題でもあると考えるのでありまして、私は昨年6月前回の大会においてもこの点をとくに強調いたした次第であります。その後金融情勢が平静化するに伴い、形の上ではオーバー・ローンはある程度是正され、金利水準も引続き低下をみておりますが、問題はむしろ金融本来の調整機能をいかにして高めるかということであり、私どもは当面これに重点をおいて考えて参りたいと存じます。

もとより金融正常化は一挙にして成るものではなく一歩一歩とじつくり解決を進めてゆくべきものであります。法的規制その他の統制的な手段によつて早急に効果の実現を望むことは、かえつて正常化本来の目的に反するというほかないのでありまして、私はあくまで金融のルールに基き自己責任の原則を生かす方向において、着実に正常化を進めて参りたいと思います。現在、是正を要する金融上のゆがみは多々ありますが、当面の問題は金融調節力をいかに整備強化するかということであり、金利の弾力化、資本市場の育成などにつきましてもかかる観点から採り上げる必要があろうと存じます。

しかしながら金融正常化の根本は、結局銀行の

資産運用態度の正常化ということに帰着すると、私は考えるのであります。いかに政策手段を整備いたしましても、銀行が支払準備に対する配慮を欠きますならば、金融調節の効果は著しい制約を受けざるをえないのであります。本来弾力的な金融調節は、銀行が流動性保持に努めることを前提といたして初めて効果をあげうるのであります。とくに銀行の貸出態度のいかんは当面の経済動向にも多大な影響をもつものでありまして、この意味におきましても健全かつ適正な資産運用態度の確立が急務と存ずるのであります。

〔銀行に対する要望事項〕

このような見地から、銀行の各位に対しこの際とくに要望いたしたいことは、第1に、銀行自身が健全経営の原則に立ち返えり、これに徹していただきたいということであります。銀行としての経済的信認を高めるためにも、支払準備を充実し、資産の流動性を向上させるよう格段のご努力を願いたいのでありまして、とくに金融基調が改善をみている今こそ、その好機であります。これに関連し目下自主的に日本銀行に対する預け金を逐次増加してゆく方針が採られておりますことは、まことに時宜を得たものと思われますが、日本銀行といたしましても、当面銀行の流動性向上を促進いたすため、実情に即した考慮を払つて参りたいと考えております。

第2は、銀行の業務運営態度についてであります。最近銀行の貸出態度にやや積極化の気運がうかがわれ、また一部には単に業容の大を競うがごとき傾向もないとは申せませんが、もしこの点に行過ぎを生ずることがあれば、銀行の社会的信認をそこなうばかりでなく、経済安定の基調を乱すおそれも少なくないと存ずるのであります。金融界の役割がこれまで以上に重大さを加えている今日、各位におかれましては十分自粛自戒していただきたいのであります。この点私は、いわゆる自主調整の努力が寄与しうるところも多大なものがあろうと期待いたすのでありますが、同時に、自主調整といい協調と申しましても、その根底はあくまで自己責任の原則に立つた金融機関の健全経営にあることは申すまでもないところであります。

〔む す び〕

今日のごとく経済がおおむね順調な歩みを続けている時こそ、これまでのわが国経済のあり方について根本の反省が必要ではないかと存じます。三たび重ねて経済拡大の行過ぎを繰り返すことは何としても避けねばならないのであります。景気の変動を調節し、国際収支の安定を確保いたすについて、通貨政策の任務はますます重きを加えているのでありまして、私といたしましては、通貨価値の安定確保のため万全の態勢を固めて参る所存であるのはもとよりであります。それとともに経済各界にお願いいたしたいのは、事態の好転をみつつある今日、とくに節度を守りみずからを律していただきたいということであります。これが自由な経済体制の根本ではないかと存じます。

私は上来申し述べた金融界の役割にかんがみ、銀行こそ節度を守ることにおいて、他にさきがけ、率先躬行されるのが当然と信ずるものであります。それにつけましても、銀行協会という由緒ある組織を持たれることは幸いと存ずるのでありまして、今後この組織を一段と活用せられ、銀行の真の自主性を発揮し、その使命遂行を円滑ならしめる協力の場とされますことを深く期待いたすものであります。

これをもちまして私のご挨拶を終ります。

（昭和34年6月16日）